

標 題 : Relative validity of a semi-quantitative food-frequency questionnaire in an elderly Mediterranean population of Spain  
スペインの高齢地中海住民における半定量食品頻度アンケートの相対的な妥当性

---

著 者 : J. D. Fernández-Ballart, et al. (スペイン ロビラ大学 医学・健康学部  
予防医学・ヒト栄養学科)

---

掲 載 誌 : Br. J. Nutr. 103: 1808–1816 (2010)

---

要 旨 : 心臓血管系リスクの高い人々での地中海食事による心臓血管系疾患一次予防の臨床試験である PREDIMED 研究で使用した自己管理された食品頻度アンケート(FFQ)の再現性および相対的な妥当性を評価することが、本研究の目的であった。

FFQ を 1 年間に 2 回実施して(FFQ1 および FFQ2)、再現性を探求した。

妥当性を探求する参照として 3 日間の食事記録(DR)を 4 回用いた ; 従って被験者は 1 年の間に 12 日にわたって食事を記録した。

FFQ 2 と食事記録からの情報を比較した 5 分割表により FFQ における誤分類の程度も評価した。

合計 158 人の男性と女性(55–80 歳)に、研究中に食事習慣を変えないように求めた。

0.50–0.82 の範囲のピアソンの相関係数(r)および 0.63–0.90 の範囲のクラス内相関係数(ICC)によって、食品群、エネルギーおよび栄養素の摂取の再現性を探索した。

FFQ2 は食事記録よりも高いエネルギーおよび栄養素の摂取を報告する傾向であった。

食品群、栄養素およびエネルギーの摂取について食事記録に関する FFQ の妥当性指数は 0.24 から 0.72 の範囲(r)で、ICC の範囲は 0.40 と 0.84 の間であった。

食品群に関して、人々の 68–83%は両者の方法とも 5 段階で同一または近接であり、エネルギーおよび栄養素の摂取では 55–75%に数値が減少した。

FFQ 測定は良い再現性と相対的な妥当性を示して、他の追跡研究で使用された FFQ と同様であったと、我々は結論を出した。

キーワード : 妥当性、FFQ、食事記録、地中海住民、PREDIMED 研究、スペイン

---